

目 次

「令和3年度事業」のご案内

- (1) 広大マスターズオンライン講演会 1
- (2) 広大マスターズ講師派遣講座 2

「会員エッセイ」コーナー

- 広島大学法学部の東千田移転に異議あり (菅川健二) 3
- アシ、アマモ、マングローブなどの沿岸植生が地球を救う (上 真一) 4
- 会員情報 5

「令和3年度事業のご案内」

(1) 広大マスターズオンライン講演会

演 題：ウイルス感染症の基礎知識と新型コロナウイルス感染症

講 師：松田治男(広島大学 名誉教授/広大マスターズ会員)

日 時：令和3年9月18日(土) 13:30～14:30

場 所：オンラインで開催(Zoom アプリを使用 双方向)

講演要旨：昨年来、世界中で新型コロナウイルス感染症 (COVID-19 という) が地球規模で蔓延し、パンデミック状態が続いている。本年4月26日現在、世界全体での感染者数は1億4646万1651人で、死者は309万9467人。日本では同日死者数が1万人を超えたと報じられた。COVID-19の病原体の正体は直径約100 nm (nmは10億分の1メートル) のRNAウイルス。人間に感染するコロナウイルスは全部で7種あり、その内4種類は6歳までに感染する。残る3種類はSARS-CoV-1 (重症急性呼吸器症候群コロナウイルス-1) (2002-2003 終息)、MARS-CoV (中東急性呼吸器症候群コロナウイルス) (2012-継続) そして現在流行中の新型コロナウイルスがSARS-CoV-2 (重症急性呼吸器症候群コロナウイルス-2) (2019-継続) である。ことに新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) は今後長期にわたって人間界に居座り続けると想像されている。

この講演会では、ウイルス感染 (症) の基礎知識を含め、新型コロナウイルスに関わる最近の情報を元に、このウイルスの感染における特徴やウイルス変異がもたらした諸問題、そしてわが国でも接種が開始されたワクチンについても解説してみたい。

【申込先】 参加希望者の氏名(ふりがな)・メールアドレスを明記の上 hiked@hiroshima-u.ac.jp (池田幹事)宛申込み下さい。参加者には開催日当日開始時刻の30分前に招待URL及びミーティングID・パスワードをメールでお知らせします。招待URL等からご参加下さい(アカウント不要)。申込み締切は9月11日(土)です。

【問い合わせ】 広大マスターズ池田幹事・電話 082-422-5863

(池田秀雄記)

(2) 広大マスターズ講師派遣講座

(i) 留学生のための短期研修講座

2021年度夏期広島大学日本語・日本文化特別研修（オンライン）に対して、下記の2つの講義を担当した（各1コマ）。対象学生：台湾、中国、非漢字圏

「日本の絵画―絵巻物の世界―」（金田 晋）

「日本の伝統スポーツと礼―武術から武道へ（剣道の演技あり）―」（渡部和彦）
(渡部和彦記)

(ii) 広島リカレント学院講座

教養講座（第2期）においては、コロナ禍の影響を受け、講義予定の順番を変更せざるを得なかった。感染予防には十分配慮を行ったうえで、予定された講義を行っている。なお、広大マスターズからは、15名の講師を派遣した。

専門講座（第2期）においては、下記の2名を派遣した。

「英会話」：三浦省五

「健康づくりウオーキング」：渡部和彦 (渡部和彦記)

(iii) ちゅーピカルチャーセンター講座

2021年度4月から予定通り開講している。コロナ感染下の前年度の経験をいかし、入口では消毒薬で手洗い、マスクは着用。大きい教室をつかい、テーブル、座席の配置も受講生の三密を避けるよう、工夫している。難波平人講師「水彩・油絵」（毎月第1金曜日）。金田晋講師「近代美術の世界」（毎月第2・第4金曜日）。授業は3か月をひとくくりに行っているが、どちらの教室も受講生が増えるなど、活気がある。

(金田 晋記)

(iv) 東広島市民講座

令和3年度前期に、「楽しいドイツ語入門Ⅰ」（吉田光演講師）と「小学生のための実戦的な将棋講座」（早瀬光司講師）の2講座を企画した。ドイツ語Ⅰ講座は、コロナの緊急事態宣言が延長される状況となり、開催が中止となった。将棋講座は、3回目までは順調に進んだ。最終回の4回目は大雨警報の可能性が高いとの連絡があり、開催が中止となった。災害の中、無事故で前期の講座を終えた。（三浦省五記）

広島大学法学部の東千田移転に異議あり

菅川健二（広大マスターズ会員）

このたび広島大学が法学部を東広島キャンパスから東千田キャンパスに移転させる方針を決定したことに対し、かつて県行政や法学部の教職に在籍していたものとして、驚きを禁じ得ない。

ご承知のように、広島大学は、戦後、旧制八校が統合して発足したため、「タコ足大学」の状態であったのを、大学紛争を契機として、医療系を除くキャンパスの大半を東広島へ統合移転し、名実ともに総合大学として新たな門出をしたのである。

その後、大学は、国内有数の総合大学として発展し、地域に定着してきている。

このような状況にあって、今なぜ総合大学としてコアな学部である法学部を東千田に移転しなければならないのであろうか。

学長の記者会見や公表資料によると、東千田キャンパスを「法曹養成を核とした人文社会科学系の新たな拠点」にするとし、同キャンパスに所在する法曹養成を目的とする法科大学院と法学部の連携を強化することにあるとしている。

しかしながら、法学部教育の観点からみると、法学部は、「法的素養と幅広い視野、判断力を養い、国際社会に貢献できる資質、能力を育みます。」（法学部案内）とあり、法曹養成とは必ずしも合致しないのである。現に同学部には、公共政策、ビジネス法務、法曹養成の3つのプログラムが設定されており、学生の進路先の実態をみても、民間企業や公務員が大半で、法曹界への進出は1割程度にとどまる。このように法学部の目的や学生の実態から考えると、移転による法科大学院との連携強化よりも、現行の総合科学部、経済学部等他学部の関係科目の履修や今日的課題である文理融合教育の実施が困難となるマイナスの面がはるかに大きいといえる。

特に学長は、記者会見で都心に移転することにより、社会との接点の緊密化を挙げておられるが、文系・理系を問わず、多様な特性を持った学生が同じキャンパスで共に学び、友情を深めることの方が、本人にとって生涯にわたる得難い資産となり、視野の広い人材を育成する学部の目的にも合致するのではないであろうか。

更に、移転によりランドや図書館、福利厚生施設等共用施設の利用が不便となり、場合によっては二重投資の弊害も出てくる。大学経費の節減が要請されている今日、移転整備費に約40億円もかける投資効果が問われる。

以上の諸点から、法学部の東千田への移転に異議を唱えるものである。

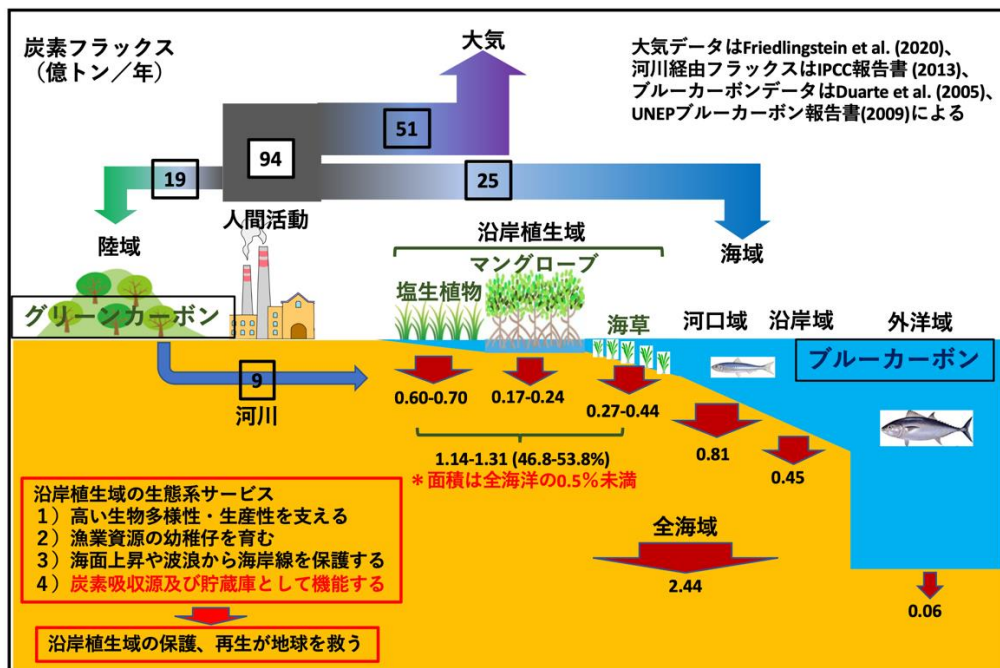
この際、広島大学が総合大学であることの意義を再認識して、経済学部やその他の文系学部に波及することのないよう、今後、大学の進むべき方向性を慎重に決定することを切に願うものである。

アシ、アマモ、マングローブなどの沿岸植生が地球を救う

上 真一（広大マスターズ会員）

小学校の夏休み、午後は楽々園（現在の広島市佐伯区）に海水浴、潮干狩りに行くのが常だった。麦藁帽子を被って徒歩で約1キロ、空には入道雲が湧きあがり、気温は30度だった。しかし、今は35度以上にもなって日中の外出は危険だし、入道雲が湧かないので夕立も来ない。世界の温暖化現象は止まるところを知らない。私たちが二酸化炭素を放出し続けているからだ。

2015年のパリ協定は、今後の世界平均気温を産業革命以前の1.5度の上昇に抑えることを目標としている。既に気温は1.2度上昇しているため、余裕はない。目標達成に向けた早急な技術革新、社会経済体制の変革などが求められているが、最も基本とすべきは、森林など地球に備わる自然生態系の二酸化炭素吸収能力を最大限に活用することである。植物は二酸化炭素を吸収して光合成を行い、植物体内に固定された有機炭素は、枯れ死んだ後に堆積物中に長期間貯蔵される。これまで海洋生態系による炭素吸収、貯蔵研究は、陸上生態系（特に森林）での研究に比較して遅れており、不明点が多かった。しかし、最近の研究によれば、海洋は陸上よりも重要な役割を果たしていること、就中、海草（アマモなど）、マングローブ、塩生植物（アシなど）など、海岸線に沿って繁茂する植物の貢献が極めて大きいことが明らかになった。



上図は地球規模の1年間の炭素移動量を模式的に示したもので、人間活動などにより大気中に放出される炭素の約3割を海洋が吸収し（これをブルーカーボンと呼ぶ）、約2割を陸上吸収し（これをグリーンカーボンと呼ぶ）、残り5割は大気中に溜まり、温暖化の元凶となっている。2009年、専門家グループがブルーカーボンに関するレポートをユネスコから出版した。その中で、植物（プランクトンも含む）を経由して海底へ沈降し、最終的

に堆積物中へ貯留される炭素量を、各海域において見積もった（図中の赤い矢印）。全海洋での年間貯留量は2.44億トン。驚くべきは、海草域、マングローブ域、塩生植物域（これら3域を合わせて「沿岸植生域」と呼ぶ）での合計貯留量は、全海洋の約半分にも及ぶことで、一方でそれらの占める面積は全海洋の0.5%にも満たない。沿岸植生域の現存面積は、1940年台の面積の2/3～1/2に縮小し、毎年数%の割合で減少している。驚きの裏には、これまで私たちがこの空間を徹底的に破壊してきたことへの罪悪感が存在する。「えっ、そんなに大切な場所だったの？」との驚きも混じる。

従来から、沿岸植生域は高い生物多様性と生産性を備え、漁業資源の幼稚仔を育み、海面上昇や波浪から海岸線を保護する機能などが知られていたが、ここに新たに炭素吸収源及び貯蔵庫としての役割が加わった。それにより、今や沿岸植生域は地球温暖化防止対策の切り札となった。しかも残された最後の札である可能性が高い。ブルーカーボンレポート発表以降、これまでにないペースで沿岸植生域の保護、再生活動が世界的に展開されており、今年2月にユネスコは合計50海域を世界遺産 (Marine World Heritage) に登録したと発表した。沿岸植生域のブルーカーボン貯留機能を最大限活用することが（勿論、二酸化炭素排出ゼロの実現化は当然であるが）、持続可能な将来への希望の光となる。もし人類がこれまで通り沿岸植生域を破壊する愚行を続けるなら、地球は近い将来オーバーヒートする。

会員情報

(1) 新入会員について

本年度は下記の3名の新入会がありました。（岩田賢司記）

青木孝夫氏（元人間社会研）

清水典明氏（元統合生命研）

吉村幸則氏（元統合生命研）

【広島大学マスターズ事務局】

（郵便物宛先）〒739-8601 東広島市西条栄町 8-29

東広島市市民協働センター内 メールボックス No.5 「広大マスターズ」

Eメール：masters@hiroshima-u.ac.jp

URL：（会員版）<https://masters.hiroshima-u.ac.jp>

（かわら版）<https://hirodaimasters.web.fc2.com/index.html>